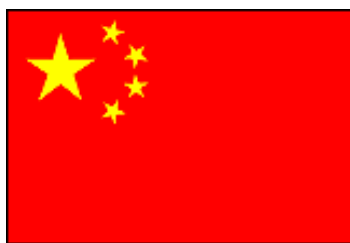
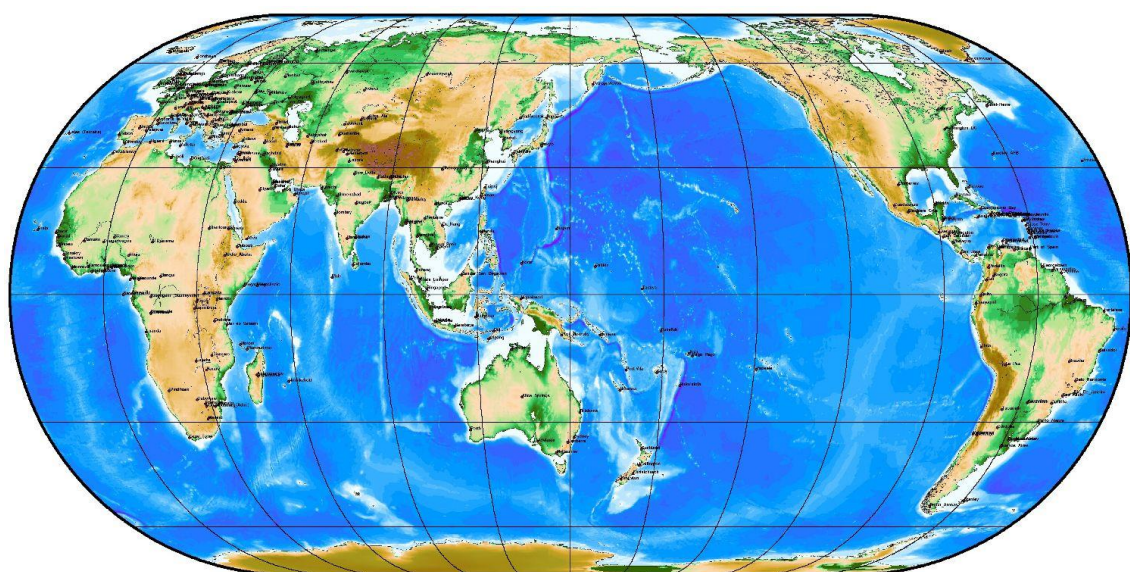


平成29年度和歌山県立日高高等学校

国際交流のあゆみ



日高高校 教育開発部

目次

海外研修		ページ
1	カナダ研修 【10月】	・・・ 1
2	インドネシア研修 【11月】	・・・ 10
3	ベトナム研修 【12月】	・・・ 20
4	ドイツ研修 【3月】	・・・ 30
姉妹校交流		
1	中国 西安中学訪問 【10月】	・・・ 36
2	デンマーク フレデリクスハウン高校訪問団来校 【10月】	・・・ 42
その他		
1	アジア・オセアニア高校生フォーラム 2017 【10月】	・・・ 50
2	マレーシア SMJK カトリック高校来校 【12月】	・・・ 52

海外研修

カナダ研修

1 目的

- (1) 日系カナダ移民の歴史について学修を深める。
プログラム①バンクーバー市近郊のジョージア湾缶詰工場国定史跡の見学
プログラム②日系カナダ人からの聞き取り調査および交流
- (2) 異文化コミュニケーション、異文化理解に関する見識を深める。
プログラム③現地高校生との交流
プログラム④インタビュー調査を主とするフィールドワークの実施
- (3) 生徒自らの主体性を涵養する。
プログラム⑤生徒自らが計画実行する「自主研修」の設定

2 日時

2017年（平成29年）10月28日（土）－11月2日（木）

3 研修先

カナダ・ブリティッシュコロンビア州（バンクーバー市、リッチモンド市）

4 事前・事後研修

事前研修①英語研修：夏期休暇中10回

事前研修②英文資料翻訳、プレゼン準備、インタビュー準備：9月－10月放課後

事後研修 研修総括、プレゼン準備、報告書作成：11月－1月

5 研修団

参加生徒：2年生5名 1年生1名、計6名 引率教員：2名

6 主な訪問先

- (1) UBCキャンパス **The University of British Columbia**
- (2) スティーブストン缶詰工場史跡 **Gulf of Georgia Cannery National Historic Site**
- (3) 和歌山県人会 **Steveston Community Centre**
- (4) グランビルアイランド **Granville Island**
- (5) リッチモンド教育委員会 **Richmond School Board Offices**
- (6) リッチモンド セカンダリー スクール **Richmond Secondary School**

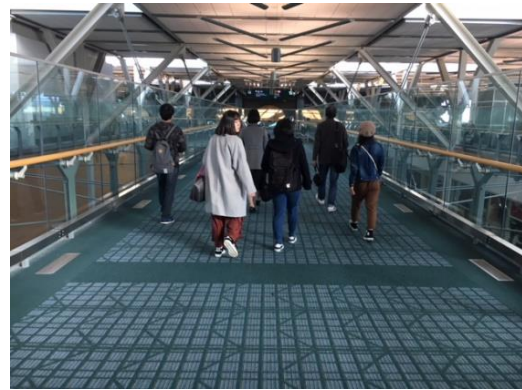
7 研修日程

日次	月日 (曜)	地名	現地時刻	交通機関	予定(宿泊地)
1	10月28日 (土)	関西空港発 バンクーバー 着	16:25 9:45	AC1952 バス	①UBC キャンパス訪問 ホテルへ (バンクーバー泊)
2	10月29日 (日)	バンクーバー リッチモンド	午前 午後	バス	①バンクーバー市内見学 ②スティーブストン缶詰工場史跡 見学 ③和歌山県人会訪問 (1)交流 (2)ゲーリーポイント見学 (バンクーバー泊)
3	10月30日 (月)	バンクーバー	午前 午後	公共交通 ・市バス ・水上タクシー	①自主研修 (1)グランビルアイランド (2)インタビュー調査 ・「食」について ・「災害」について (バンクーバー泊)
4	10月31日 (火)	リッチモンド	終日	公共交通 ・鉄道	①リッチモンド教育委員会 訪問 ②学校交流 Richmond Secondary School (1)プレゼン(学校紹介) (2)授業参加 (日本語、英語、数学) (3)生徒交流 (ランチ交流、授業交流) (バンクーバー泊)
5	11月1日 (水)	バンクーバー 発	11:00 15:30	バス AC0003	ホテル出発 (機内泊)
6	11月2日 (木)	羽田空港着 羽田空港発 関西空港着	17:00 19:00 20:35	APJ318	羽田着、乗り換え 関西空港 着後解散

事前研修～初日

私たちは10月28日から11月2日までカナダに海外研修に行きました。行く前に事前研修があり、夏休みにはALTのジェームズ先生と一緒に英語を使ったさまざまな取り組みをしました。この取り組みのおかげで、コミュニケーションを取ろうとする姿勢が身に付き、また、英語に対する意欲が沸きました。夏休みが明けて学校が始まると、メンバーと集まって発表の準備に取りかかりました。発表の準備は大変でしたが、メンバーと協力し合い仲を深め合うことができました。

そして、10月28日、カナダに向けて日本を出発しました。私は飛行機の中で映画を見ようと楽しみにしていましたが、モニターが無かったので、映画を見ることができませんでした。残念でした。離陸して1時間ぐらい経った時、突然、乗務員に席を移動してほしいと言われたので、席を移動しました。理由を聞くと、実は乗務員の席だということでした。迷惑をかけたということで、お礼としてタブレットを貸してもらいました。それからの飛行機の中での時間は映画を見たり、ゲームをしたりして有意義なものとなりました。このようなハプニングがありましたが、冷静に対処することができたので良かったです。



約9時間の長い旅から、ようやくバンクーバー空港に着きました。入国審査を無事に済まし、日本人のツアーガイドさんと合流し、車でUBC(ブリティッシュコロンビア大学)に行きました。この大学には約5万人の学生が在学していると聞きました。キャンパス内はとても広く、歩くのにかなり疲れました。開放感あふれるキャンパスで、海外の大学の雰囲気味わうことができました。また、驚いたことに日本の庭園があり、この庭園は新渡戸稲造記念庭園だと知りました。まるで、日本にいるかのような感覚になりました。



そのあとは、バンクーバーにあるホテルに移動しました。ホテルに着いて部屋に荷物を置いてから近くのスーパーに行き、その日の夕食を買いました。初めての精算で、まだ慣れていないということもあり、少し時間がかかってしまいましたが、なんとか精算することができました。一日目はハードでしたが、楽しめました。

(2年6組 新田梨湖)

2日目



日系人会館を訪問させていただき、実際に移民をされた方々の話を聞くことができました。直接、経験者からカナダ移民の歴史について話を聞かせてもらう機会なんてないので、とても貴重な体験をすることができました。また、このカナダ研修で「移民について関心を深める」といった自分の目標も果たすことができました。

シャケの缶詰工場では、シャケ缶詰の作り方を、魚を捕るところから缶詰になるまでの一連の流れが展示されていました。この工場で働くために移民する人もいたそうで、移民と深く関わる場所でした。この周辺には食べ物屋さんがいくつかありました。私はサーモンバーガーを購入しました。

バンクーバーは思っていたより物価が高かったです。日本の金額と比べてしまって、買うのを惜しんだものもありましたが、いろんなところで買い物をして、いろいろなものを購入できたので楽しかったです。

(2年3組 濱本彩花)



3日目

3日目はホテルからバス停まで歩き、そこからバスに乗ってグランビルアイランドに行くことにしました。バスから降りて目的地に向かっていているときに、道に迷ってしまっていて困っていると、以前、客室乗務員をしていた方が、道を案内してくれました。そのとき、改めて人の温かさを感じました。グランビルアイランドにはレストランや洋服店など、色々な店があり、とても充実した買い物を楽しむことができました。インターネットで事前に調べて、写真を見ていたのですが、自分が想像していた場所とは少し違い、やはり実際に現地に行って自分の目で見ることは大切だと思いました。私たちはそこで昼食をとったのですが、私たちが普段食べているようなものと同じよう



な材料を使っている、日本とは違う味だったので少し戸惑いました。

その後、ホテルに戻ってインタビューをしました。私たちは「食」と「災害」の2つの班に分かれ、私は災害についてインタビューしました。質問の答えは自分たちが想像していたものとは違い、予想外な答えがたくさん返ってきました。バンクーバーは都会で自然があまりないイメージがあったのですが、山火事が多いと言っていた方がたくさんいたり、ほとんど地震がないと聞いていたのですが、マンションなどで地震対策をしている建物もあると言っていた方がいたりしました。慣れない英語で知らない人に話しかけるのはとても勇気がいることでしたが、直接、現地の人と会話することで、今まで知らなかったことを知ることができたのでとても良い経験になりました。また、現在のグローバル化社会の中で、これからもっと多くの外国人観光客の方々が日本に来るようになると思うので、いつ災害が起こっても対応できるように外国人の方がスムーズに避難できるような取り組みを行っていかねばならないと思いました。



最後に、歩いてロブソン通りに行き買い物を楽しみました。バンクーバーの街並みをよく見ると、一つひとつの通りの名前が書かれてある看板がありました。日本では見られない光景で、初めて来た観光客にとっても分かりやすく、とても便利だと思いました。

私たちは日本の文化に慣れていますが、他の国の文化にも良さがあるので、もっと多くの国の文化を知り、理解することが大切だと思いました。（2年6組 戸根栄里華）

4 日 目

まず初めに Richmond 教育委員会を訪問し、リッチモンドの学校や教育についてのお話を聞かせていただきました。職員さんが日本に住んでいた経験があり、日本語で少し話してくださったりして、すごく親切でフレンドリーに接してくださいました。

次に職員さんに案内されて、Richmond Secondary School を訪問しました。その日がちょうど 31 日でハロウィンだったので、学校の中に入るとたくさんの生徒が仮装をしていて、驚きました。日本では仮装をして学校に行くことは考えられないことですが、カナダではそれが当たり前で、学生だけでなく、仕事に行く大人の方も仮装をすることがあるそうです。着いてすぐに少し学校の中を案内してもらって、日本語の授業を受けました。グループに分かれて、それぞれのテーマについて日本語で発表し、その発表を聞いて他のグループの人達が日本語で質問するといった授業内容でした。皆すごく日本語が上手で驚きました。



その授業の後半で、私たちは日高高校について英語で発表しました。その後、私たちは二人ずつに分かれて、英語や数学の授業を受けました。日本語の授業を受けていた子達が、私たちをいろいろな授業に連れて行ってくれたのですが、すごく優しくて、私たちの拙い英語を一生懸命理解しようとしてくれました。また、頑張って日本語で話そうとしてくれたりして、すごく嬉しかったです。ハロウィンだったので、お菓子をくれたり、猫耳のカチューシャや花冠をつけてくれたりもしました。昼ご飯も一緒に食べて、お昼からの授業も一緒に受けさせてくれました。昼休みには、ハロウィンの仮装大会のようなことも行われていて、すごく盛り上がっていました。一つの授業が 120 分だったのでいつもより長く感じましたが、一つの授業が長い分一日の教科数が少なく、2 時 45 分には学校が終わりました。



カナダの学校を訪問して一番感じたのは、日本の学校に比べてすごく自由だということです。一人一人が自分の受けたい授業を選択することができ、自分が学びたいことを学ぶことができます。授業中は、携帯の使用や飲み物を飲むことが許されていて、授業中にもかかわらず、ゲームをしている生徒もいました。日本の学校ではあまり考えられないことだったので

ごく驚きました。しかしそれは、カナダの生徒は自分自身で選択したり自由に行動したりする分、責任を常に自分で背負っているからかもしれないと思いました。私たち日本の生徒が周りに流されやすかったりするのに対して、自分の選択や行動に、より責任を持って行動しているのではないかと思います。日高高校ではいろいろな国からの訪問団を受け入れる機会が多いですが、今回の様に自分たちが外国の学校に行き、そこで授業を受けることで異文化に直接触れられるという機会はなかなかありません。今回の訪問はすごく貴重な経験になりました。

(2年4組 伊井稀星)



全体感想・1

カナダ研修に参加して一番感じたことはカナダの生活環境には様々な文化が入り混じっていることです。日本の特に私たちが住んでいるような地域では違う文化の人と関わるのが少ないです。しかしカナダでは日常的に違う文化の人と関わりを持っています。日本に比べると異文化の人たちに対しての感じ方が違うと思いました。

私たちがカナダに行った時期がちょうどハロウィンの日でした。ここでも日本との違いを見つけました。それは仮装をして仕事や学校に行くことです。それはたとえ今、日本にハロウィンが浸透してきているといっても考えられないことだと思います。



自主研修の前日の夜、ホテルのロビーでどこに行くか、どうやって行くかをみんなで話し合いました。実際、自分たちだけで行動できるか不安だったけど自分たちでバスに乗って分からないことは現地の人に聞いて目的地までたどり着けました。この自主研修で自分たちだけで行動するからこそ、ひとりひとり自分の行動に責任をもつ事の大切さを改めて感じました。



初めての英語圏での研修で自分たちで考えて行動する、日本とは違う文化に直接触れてそれについて学ぶということを5日間という短い研修の中で経験しました。普段の高校生活やインターネットでは知ることができないことを知ることができ、異国の地で非日常的な生活を味わえました。また日本人とカナダ人の外国人に対する意識の違い、なぜカナダの人は異文化の人と共存していけるのかということも考えることもできました。



私たちはこれからもっと異文化について考えることが必要だと思います。

(2年4組 堀本妃夏)

全体感想・2

今回のカナダ研修では海外の人々の積極性や親切な心に触れることが多々ありました。例えば、道が分からずに困っていた際は通りすがりの見知らぬ人が親切にも声をかけて下さり目的地まで案内してくれました。街頭インタビューを行ったときには日本では考えられないくらいに丁寧に対応してくださるのはもちろん、断る際にも言葉が正確に理解できていない僕たちでも親切に接してくれているのだとはっきり分かるくらい親切な対応でした。よく日本人は親切であると海外の人から言われる気がしますが、僕からすれば日本人は海外の人々に比べて積極性がないのに加えて、親切心も劣っているように思います。

ですが日本の在り方が間違っているというわけではないと思います。

自分の中のカナダという国のイメージは、日本人が「外国人」と言われてパツと思いきや浮かべるような人が大半を占めている、というものでしたが実際はアジア系の方もたくさん住んでいて、多種多様な文化が混ざり合っているということを実感しました。実際、訪問した学校では生徒がこの多種多様な文化が混ざり合った中で生活していました。街



中でもそうでした。これが日本とカナダの大きな差だと感じました。日本は島国であり、他文化と日本の文化が混ざることには少ないです。文化が混ざらないことで日本は日本という一つの完結した国になっています。そのため、日本人と異なる感性を持つ海外の人との交流は苦手ですし、日本では積極性はそれほど必要ではないので積極性を持つ人が少ないのだと思います。ですがこのことは決して悪いこと

などではなく、これも日本という国の文化であるということをおぼろげに忘れてはいけないと思うのです。

しかしながら現在は世界が一つになろうとしています。その中で日本の文化だけに囚われていてはたくさんの文化が混ざり合うグローバル社会に適応できません。そのため、あくまでも日本の文化の芯の部分は持ったままで他文化も理解していく必要があるのだということが今回の研修を通して感じた全体感想でした。

一週間にも満たない短い期間の研修でしたが、たくさんのことについて考える機会とたくさんのことを経験できたと思います。今回の経験を将来に活かしていきたいと思いました。

(1年5組 楠 裕貴)



インドネシア研修

1 目的

- (1) インドネシアにおける防災対策、自然災害の危機管理の取組について連携機関で学ぶ。
- (2) 本校における防災や地域合同避難訓練の取組を紹介し、現地の人たちと情報を共有することで自らの防災意識を高め、グローバルな視点から危機管理について考える。
- (3) インドネシアが抱える自然災害、ライフライン、エネルギー、環境に関わる問題について学ぶ。
- (4) 現地での学校交流を通し、コミュニケーション力を高め、互いの文化について理解を深める。

2 日時

2017年（平成29年）11月6日（月）～11月12日（日）（現地5泊、機中1泊）

3 研修先

インドネシア共和国（ジャカルタ市、ボゴール市、ジョグジャカルタ市）

4 事前・事後研修

事前研修① 英語研修：夏期休暇中10回

事前研修② 英文資料翻訳、学校紹介・防災の取り組みプレゼン準備

事後研修 研修総括、プレゼン準備、報告書作成：11月～1月

5 研修団

参加生徒：1年生4名・2年生3名、計7名

1年生：谷口 咲予 倉 彩斗 阪口 結海 山口 瑛己

2年生：浦邊 知佳 下野 翼 中野 陽介

引率教員：2名

菊地 貴子 中野 貴文

6 研修日程

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	実施内容
1	11月6日 (月)	関西空港発	11:00	バリ経由でジャカルタへ(GA883 / GA415)
		ジャカルタ着	20:00	到着後、宿泊ホテルへ

2	11月7日 (火)	ジャカルタ	午 前 午 後	【ERIA 訪問】 講義 ・ERIA 組織に関する紹介（言語：日本語） ・ASEAN 及び東アジア地域のインフラプロジェクトの進捗に関する調査（言語：日本語） ・Energy Outlook and Key Energy Issues in East Asia Summit Region（言語：英語） 【ジャカルタ市内研修】 ・コタ地区視察 ・独立記念塔視察
3	11月8日 (水)	ジャカルタ ボゴール	終 日	【学校交流】 Madania Secondary School ・開会式 スピーチ、学校紹介等 ・日本語クラスで浴衣着付け授業 ・校内案内 ・インドネシア郷土菓子調理実習 ・生徒間交流 （南中ソーランのパフォーマンス披露） ・2グループの防災の取り組みプレゼンテーション（言語：英語） ・閉会式
4	11月9日 (木)	ジャカルタ	09:30 12:30 14:00 17:30	【JICA 訪問】 ・インドネシアの JICA 事業紹介 ・インドネシアの防災取り組み紹介 PPOP へ移動 ・PPOP で柔道の現地支援活動の視察 （スポーツに特化した学校で柔道を指導されている隊員の方の活動を見学） 【イスティクラルモスク見学】
5	11月10日 (金)	ジャカルタ発 ジョグジャカルタ 着	10:30 11:30 14:30	空路、ジョグジャカルタへ(GA206) ジョグジャカルタ着 【サンギラン博物館見学】
6	11月11日 (土)	ジョグジャカルタ ジョグジャカルタ 発	午前 午後 20:25	【ボロブドゥール遺跡視察】 【ジョグジャカルタ市内研修】 空路、ジャカルタ経由で関西空港へ(GA217 / GA888)
7	11月12日 (日)	関西空港着	08:15	帰国

1日目

2年6組 中野 陽介

2017年11月6日(火)から12日までの一週間、僕たちはインドネシア研修に行ってきた。僕以外の生徒は親御さんに関西空港まで送ってもらったようですが、僕は親の都合もあって、引率の先生方と御坊駅から7時22分の電車で関西空港まで行きました。

今回のSGHインドネシア研修のテーマは、「ふるさとの防災に学ぶ」で、僕たちのいる日本とインドネシアの共通点は、地震の多く発生する海洋プレートの近くに位置する島国であることです。そして、地震や津波等の自然災害の対策を現地に足を運んで肌で感じながら学び、将来必ず起こりうる南海トラフ大地震に備えるための知識を得ることが目的でした。僕の個人的な目標は、居心地の良い日本から飛び出して、異文化をこの目見て、英語を用いてインドネシアの人たちとコミュニケーションをとることで、これから自分を待つ、進学や就職のために視野を広げることでした。夏休みから英語の研修や、マダニア高校で行う発表の準備で多くの時間を費やしてきたので、当日になると楽しみな気持ちとその半分くらいの緊張が心を高ぶらせていました。

そうしてわくわくしていると、すぐに関西空港に着いていました。皆と合流し、搭乗手続きを早々に済ませて、余裕を持って飛行機に乗り込みました。今回の研修の飛行機は全てガルーダインドネシア航空だったので、搭乗者は過半数がインドネシアの人でした。また、緊急時の対処法などのアナウンスも英語とインドネシア語だったので、聞き取るのが難しかったです。その後、滑走路に入った飛行機は加速し、ついに離陸しました。約一年ぶりの飛行機は久しぶりに感じましたが、この後何度も乗りかえて、嫌と言うほどこの感覚を味わうことになることを、このときの僕はまだ知りませんでした。その時の僕の隣の座席には下野君が座っていたので、後日にひかえている発表の原稿を読み返したり、話をしたり、座席についているモニターでゲームをしたりと、退屈しませんでした。しかし、半日以上も飛行機に乗ったことがなかったので、体勢が変えられないことや、機内の空気をずっと吸っていることなどのせいで少ししんどかったです。日が暮れてから経由地点のデンパサール空港に着きました。ここからもう一度飛行機に乗り継がなくてはならないのかと考えると憂うつになったので、次の飛行機では寝ることに決めました。次の飛行機に乗ると疲れていたからか、すぐに寝ることができました。目を覚ますと既にジャカルタ空港に着いていました。関西空港の玄関からジャカルタ空港の玄関まではずっと屋内だったので、外へ出る扉を出た瞬間、夜でも高い湿度と気温は僕たち全員に強い衝撃を与えました。

そこからは大型タクシーでホテルまで行きました。道路は片側3車線もあって、道端の看板も巨大で建物も高層ビルばかりで、ジャカルタの都市景観に驚かされました。ホテルに着くと、ホテルの美しさにも驚かされました。事前に調べて、プールがあることを知っていたので、僕は水泳パンツを持っていき、後日数回泳ぎました。とても優雅な時間を過ごせました。1日目の夕食はホテルの前にあるコンビニで買ったコカ・コーラとミゴレンのカップ麺でした。物価が日本と違ってとても安く、2Lのコラをコンビニで買ったのにも関わらず、日本円にすると数十円しかしませ

んでした。次の日の準備をして、やっと長い一日目を終えることができました。相当疲れていたのか、すぐに眠りに就くことができました。

2日目

2年5組 下野 翼

私たちは2日目午前中、ERIAを訪問しました。ここでは、ERIAやASEANの取り組み、インフラやエネルギーについての講演を聞きました。

ASEANについては1967年に結束した機関で、当時は戦争から安定した平和を築こうという目的で活動していたが、現在は東南アジアの経済統合に向けた活動を行っているという話をしてくれました。また、ASEANは「経済統合の変化」「発展格差の縮小」「持続可能な発展の達成」の3つの目標のもとに活動を進めていると教わりました。

ERIAについては、主に経済に関する研究を行う機関だと紹介してもらいました。インドネシア、ミャンマーなどの活力のある国は平均年齢が若く、そうした国の多くは平均年齢20歳代だということを教わりました。GDPについての話もしてくれました。GDPとは1年間にその国がどれだけ稼いだかを示すものです。日本は世界3番目だそうですが、GDPの成長率でみると日本よりインドネシアやASEANの国々のほうが高いと教わりました。しかし、そうした発展途上国の一人当たりのGDPは低いそうです。



集合写真 (ERIA 事務局)

また、インドネシアの人口増加傾向についても詳しく教わりました。日本では既に少子高齢化が起こっていますが、インドネシアでは年々人口が増加していて、人口ボーナス期が2045年ごろまで続くと思われているそうです。インフラについての講演では、インドネシアでのインフラ整備のプロジェクトについて学びました。インドネシアでは道路、学校、病院などの産業の基盤となる施設の経済の成長が追いついていないということ、交通においては渋滞が広域で頻繁に発生しているということが1つの大きな課題となっているそうです。整備の多い未開発施設として、1. Roodbridge 2. Energy Power 3. Leal Wayなどが挙げられているそうです。インフラ整備においては1: JICAの支援量の拡大、2: ADBとの連携、3: JBIC等によるリスクマネー供給拡大へ、4: 質の高いインフラの実現の「質の高いインフラパートナーシップ」の4本柱を意識しているそうです。また、エネルギーについての英語での講演もありまし



ERIA 職員より講話

た。インドネシアではエネルギー産出のため、石油の利用に頼っているということを学びました。

2年3組 浦邊 知佳



スندا・グラパン港

2日目の午後はジャカルタ市内を観光しました。まず初めにコタ地区を見学しました。ジャカルタは17世紀にオランダの統治下に置かれ、「バタヴィア」と呼ばれていました。そのバタヴィアの中心となった街がこのコタ地区です。コタ地区は、オランダ東インド会社の当時の繁栄の中心となり、貿易が盛んに行われた地域です。現在でもオランダ統治時代の街並みが多く残っていました。スندا・グラ

パン港には、木造船が停泊していて現在も貿易や木材の運搬などに使われているそうです。この港は台風が来ると、すぐに道に水が上がって来るとガイドさんが教えてくれました。港が整備されている日本と違い、海と道の高さにほとんど違いがないのが浸水などの被害が多発する原因だと学びました。

スندا・グラパン港の次にファタヒラ広場に行きました。ファタヒラ広場はバタヴィアの中心となった地域です。1627年に市庁舎として建てられた建物が、ジャカルタ歴史館として利用されています。インドネシアのイメージとはかけ離れた建物が多く残っていて、ヨーロッパに居るような感覚でした。私たちが訪れたこの日は、地域の学校の授業が午前中で終わりの日だったらしく、広場は多くの学生がグループごとに集会を開いていました。



コタ地区

その後、地元のスーパーでお土産を買ったり各自で自由行動をして、最後に独立記念塔に行きました。独立記念塔はモナスと呼ばれ、ジャカルタの中心のムルデカ広場にあります。インドネシアが独立した1945年より遅く、1961年に建設されました。この塔は大理石で作られていて、頂上部分は炎の形をし、表面に純金が張られている



独立記念

レリーフがあります。このレリーフはアピ・ナン・タツ・クンジュン・パダムと呼ばれていて、「永遠に燃え続ける炎」を意味します。私たちが行ったのは閉園間近だったので、モナスに登ることはできませんでしたが、外から見ていてもとても綺麗でした。公園内ではランニングをして居る人や、歌を歌っている人など様々な人が集っていました。

私が2日目に特に印象に残ったことは、インフラ整備が整っていないことです。どこに行くのにも渋滞が絶えず、道も整っていませんでした。また、港に堤防がないことや民家などもプレハブ小屋で災害への対策がされていないようにも感じました。

3日目

1年6組 山口 瑛己



私たちはマダニア高校を訪れました。オープニングセレモニーでは、互いの学校を紹介しあい、インドネシアの伝統的な踊りを鑑賞しました。その後、少しのティータイムがあり、生徒同士で会話をしたり、インドネシアのお菓子を食べたりしました。

その後、日本語の授業に参加しました。そこでは、日本のALTのような日本人の先生が授業を進行していました。内容は、着物の着方を学び、実際に浴衣を着るというものでした。

昼休憩があり、学校が用意してくれたご飯を食べました。ナシ・ゴレンなど、インドネシアならではのご飯がたくさんありました。

昼休憩後は、マダニア高校の生徒に学校を案内してもらいました。校内にブランコなどの遊具があり、驚きました。

この後、インドネシアの伝統菓子である、ダダールグルンと一緒に作り食べました。熱帯地方では、甘い食べ物が多いらしく、このお菓子もすごく甘かったです。

その後、「防災」についての発表をしました。私たちは「東日本大震災・南海トラフ地震」、「日高高校の防災スクール」の2つに分かれて、英語でのプレゼンテーションをしました。どのグループも練習の成果を出すことができました。



最後のエンディングセレモニーでは、感謝の気持ちを込めて南中ソーランを披露しました。披露した後、マダニア高校の方とも一緒に南中ソーランを踊りました。マダニア高校の方もとても楽しそうに踊ってくれていて、嬉しかったです。最後に写真を撮ったり、アドレスを交換したり、交流ができて楽しかったです。マダニア高校の生徒はみんな親切に接してくれました。日本語がとても上手で、会話がとても楽しかったです。この先、経験できないような貴重な経験ができました。



本校の防災訓練発表



南中ソーラン披露



記念撮影

4日目

1年2組 谷口 咲予

私たちは、4日目に JICA 訪問とモスク見学に行きました。

JICA 訪問では、講演を聞いた後に JICA がどのような活動をしているのかを視察しました。JICA は、母子手帳を作ったり空港を作ったりと様々な活動をしていて、インドネシアで私たちが使った空港はすべて JICA が作ったものだという事も知れました。



JICA 所員による講義



現地支援活動視察 (PPOP)

講演を聞いた後、JICA の活動を見に行きました。私たちはまず、JICA の現場に着いたらインドネシアの蒸しパンやとうがらしなどがふるまわれ、インドネシアならではのおもてなしを受けました。その後、インドネシアの柔道チームの練習風景を見学しに行きました。そこでは、日本から派遣された JICA 隊員の方がインドネシアの生徒たちに柔道を教えていました。インドネシアの選手は日本

の選手に比べて細身だったのでびっくりしました。

その後、私たちはモスク見学に行きました。

私たちが行ったモスクは世界最大級モスクでした。モスクの中に入るときは靴を脱が



なくてははいけません。インドネシアの人はみんな裸足でした。モスクでは、すごく大きな音でコーランが流れていました。この礼拝は毎日5回町中にも流れていました。日本では、絶対になくはないことなので初めて聞いたときは驚きました。

モスクの中は女性と男性で場所が別々になっていました。そしてイスラム教の女性は肌を見せてはいけなないので、肌が見えないような服装をしていました。

JICA 訪問、モスク見学が終わった後、私たちはホテルへ戻り、4日目が終わりました。



5日目

1年5組 倉 彩斗



5日目は、朝から飛行機に乗ってジャカルタからジョグジャカルタへ行きました。この時飛行機では隣の人が外国人でした。近くに知り合いがおらず、少し緊張してしまいました。しかし隣の外国人はとてもいい人で、機内食(間食)が出てきたときに起こしてくれました。その時、言葉は通じなくても優しさは伝わるのだな、と思いました。ジョグジャカルタへ着くと昼近くで、その日はサンギラン博物館へ行くと時間が

無くなりました。やはり、というべきか移動にとっても時間がかかりました。今までインドネシアに滞在している間に移動時間の長さを思い知らされていたので、今回も長いのだろうと思っていました。また、バスでの移動中は寝ていることが多かったのですが、長時間バスに揺られるという経験があまりなく、少し疲れしました。

サンギラン博物館にはジャワ原人という人間の祖先の化石がありました。ジャワ原人はダーウィンの進化論に影響を受けたオランダ人医師デュボアによって、1891年に発見されたそうです。また、1969年に発見された頭骨によって、初期人類の解明が大きく進んだそうです。そのジャワ原人の化石や当時のくらしが展示されていて、ジャ

ワ原人についてよく知ることができました。また、その時代に生きていた動植物の化石も展示されており、その時代の風景を知ることができました。その他にも展示されている化石に触れる事もできました。日頃、化石に触れる機会はあまりないので貴重な体験でした。

その後、バスに揺られながら夕食の場所へ向かいました。この日は昼食と呼べるような昼食は食べていなかったため、みんな空腹で夕食を楽しみにしていました。ガイドさんに連れて行ってもらった店だけあって、味はとてもよかったです。夕食後、その店の前にあるマンゴーの木からマンゴーを一ついただきました。

その後、ジョグジャカルタで泊まるホテルへバスで向かいました。時間が遅かったこともあって渋滞に巻き込まれることなく、たどり着くことができました。ジョグジャカルタで泊まったホテルはジャカルタのホテルより良い気がしました。残念にことにこのホテルでは一泊しかすることがなかったのですが、良い思い出となりました。



ジャワ原人



当時の風景

6日目

1年5組 阪口 結海



ボロブドゥール遺跡

6日目は、ボロブドゥール遺跡の見学、バティック工房見学、市場での買い物を行いました。

ボロブドゥール遺跡はインドネシアの世界遺産の一つです。また、2010年にムラピ山の火山灰の被害にあった場所でもあります。行くまでは知りませんでしたが、ボロブドゥールは仏教に深く関係する遺跡でした。私たちはガイドさんに案内してもらいながら、先ずボロブドゥール遺跡の一階部分

を一周しました。本来ならば一階部分は4周し、1周目は外側の下、2周目は外側の上、3周目は内側の下、4周目は内側の上、と見ていきます。そして、上へと上がっていくのですが、私たちは一階部分と最上階のみを見学しました。ボロブドゥール遺跡

の壁面には仏教に関するおとぎ話や、釈迦の一生が描かれていました。中には、私たちもよく知るとおとぎ話も多くありました。7、8階には、ブロックを積み重ねて作られているストウーパというのがあり、中には仏像が入っていました。最上階には、仏像もレリーフもありませんでした。この理由として、最上階は「無」の世界なので、何も存在していないということを表しているからだそ



うです。また、最上階にある建物の周りを3周、願いをとねえながら回ると願いがかなうと教えてもらったので、私たちは各々、自分の願いを唱えながら建物の周りをまわりました。

ボロブドゥール遺跡の次にバティック工房へ案内してもらいました。バティックはインドネシアの伝統衣装で、私たちがインドネシアにいる間、バティックを着ている人を多く見かけました。私たちが工房で、店員さんに説明をしてもら

いながら自分に合うバティックを探したり、お土産などを買ったりしました。

そして、最後にジョグジャカルタ市内にある市場へ行きました。市場の近くにはデヴィ夫人の別荘などがありました。市場では、路上でサテという焼き鳥に似たものを売っている人や、馬車などを多く見かけました。この馬車はタクシーの代わりだそうです。市場で私たちは買い物を楽しみました。私は市場で時計を購入したのですが、日本よりもはるかに安い値段で購入することができました。また、日本では見たことのないような鱗の形をしたスナック菓子や、ナイロン袋に入っている黄色や青の蛍光色のドリンクを見つけたりもしました。英語で話しかけてみたりもしましたが、英語よりも日本語のほうが多くの人と話すことができ驚きました。なんでも、インドネシアには日本語が必修科目になっている学校もあるそうです。私たちは、市場での買い物を大いに楽しむことができました。



ベトナム研修

1. 目的

本校での総合的な学習(地域産業)を通して、地域と世界、日本と世界のつながりに目を向け、グローバルな視点を持ちながら、地域の発展に寄与しようとする態度を身につける。

2. 学習内容

「アジアの時代」と呼ばれる現在、多くの日本企業がアジアを中心とした新興国に進出している。ベトナムにも多くの日本企業が進出し、ベトナムの GDP は、2000 年以降常に 5%以上の成長率を維持し、今後も続くと予想される。そんな熱気あふれるベトナムのロンドゥック工業団地やハノイの JICA を訪問することで、経済・産業についての知識や理解を深め、日本と世界との繋がりを意識する。また、現地学校訪問では生徒交流を通じての言語活動や異文化理解、その他施設での歴史学習や生活文化など、多様な学習を行う。

3. 事前学習

(1) 留学生との交流会

目的：ベトナムからの留学生と交流し、ベトナムの生活・文化について理解を深める。

日時：平成 29 年 9 月 29 日(金) 13 時 00 分～14 時 00 分

対象：ベトナム研修参加生徒 8 名

(2) 語学(英会話)研修

目的：現地でのコミュニケーション手段としての英会話のスキルアップをはかる。

日時：夏期休業中に実施(60 分×9 回)

対象：ベトナム研修参加生徒 8 名

(3) 学習会

目的：現地交流高校で発表するプレゼン能力アップをはかる。

日高地域、和歌山、日本の経済・産業・文化・歴史学習を通して、自分たちが住んでいる日本の現状を再認識し、ベトナムとの関わりを学ぶ。

日時：平成 29 年 9 月～ 毎週金曜日 15 時 30 分～17 時 00 分

成果物：プレゼン発表用の資料(パワーポイント)

(4) 日高未来塾講演 ～これからの若者に期待すること

目的：ベトナムへの関心をさらに高め、和歌山県の企業が行っている海外進出について学ぶ。

講師：西平都紀子 氏(株式会社信濃路 代表取締役)

日時：平成 29 年 12 月 8 日(金) 10 時 45 分～12 時 15 分

内容：和歌山県での企業経営、ベトナム・オーストラリアなどへの海外進出、企業の社会貢献の取り組みについて、講師先生に紹介してもらう。

対象：日高高等学校、附属中学校全生徒

4. 参加生徒

高校1・2年生希望者

1年生：岩崎 愛佳、湯川 真緒、田中 春陽、小出 歩未、辻道 萌、今枝 萌

2年生：小田 裕平、森 海都

引率：田中 紀行、尾崎 香里

5. 研修行程

日時	時間	スケジュール	交通手段/便名等
12月11日 (月)	8:30 10:30 発 14:05 着 17:30 21:00	関西空港集合 関西空港発(ベトナム航空) タンソンニャット国際空港着 青年海外協力隊 溝口景子氏の講話 ホテルへ	各自関空まで VN321 現地 バス New Pascific Hotel
12月12日 (火)	10:30~11:30 13:00~14:30 15:30~17:30 18:30~19:00 21:00	ロンドゥック工業団地見学 (経済的考察) 株式会社信濃路 富士の桜 訪問 日本語学校訪問 現地スーパー(生活文化調査) 夕食後、ホテルへ	バス New Pascific Hotel
12月13日 (水)	9:00~11:10 15:30 17:40 21:00	ホーチミン市内散策(生活文化調査) 統一会堂・ベントイン市場など 国内線でハノイへ(ベトナム航空) ノイバイ国際空港到着 ハノイ市内で夕食後、ホテルへ	バス VN252 First Eden Hotel
12月14日 (木)	8:30~10:30 11:30~13:30 14:00~17:40 20:00	ファンディンフォン高校訪問 (プレゼン発表、授業参加) イオンモールハノイ自由散策 (生活文化調査) ハノイ市内散策(歴史・生活文化学 習) ホーチミン廟・一柱寺・ハノイ旧市 街など 夕食後、ホテルへ	バス First Eden Hotel

12月15日 (金)	9:30~11:00 13:00~16:00 20:30	JICA 訪問 昼食後、チャンアン自然保護区見学 (自然学習) 夕食終了後、ノイバイ国際空港へ	バス 川船 バス
12月16日 (土)	00:25 06:40	ノイバイ国際空港発(ベトナム航空) 関西国際空港着 入国手続き等終了後空港にて解散	VN330 関空にて解散 各自帰宅

〈1日目〉

1年5組 今枝 萌

朝8時30分に関西空港に集合し、10時30分に大きな期待と楽しみを胸にベトナム行VN321便に乗り、4時05分にホーチミン空港に到着しました。飛行機を降りた瞬間、日本とはまた別のおいがして「外国に来たんだな」と感じました。また、現地の気温は30℃越えでとても暑かったです。初めての入国審査はとても緊張しました。空港から外に出て、まず驚いたのは、バイクの数です。日本は比べ物にならないくらい、圧倒的にバイクの数が多かったです。さらに驚いたのは、バイクを3人乗り、4人乗りをしていることです。日本だったら考えられない光景を目の当たりにしてとても新鮮な気分になりました。



空港からバスでホーチミン市内にあるホテルに移動した後に、青年海外協力隊員である溝口景子さんの講話を聞きました。溝口さんは作業療法士で、ホーチミン市内にある医療薬科大学病院で働きながら2年間現地のスタッフに日本の作業療法の知識と技術を伝達し指導しています。ベトナムに来た当初はベトナム語が少しも話せず、人と関わるのがとても大変だったそうです。また現地の病院のリハビリ室はとても狭く、ベトナムでのリハビリは運動ではなく、あん摩が中心だそうです。リハビリで使えるような自助具はなく、その人に合う道具を自分で作るのがとても大変だということでした。溝口さんのお話は人との関わり方、大変なこと、困ったことに直面しても乗り越えられるようなアドバイスなど将来の自分の為になる内容でした。講話が終わった後、溝口さんと一緒に食事に行きました。そして楽しみにしていた夕食！初めてのベトナム料理！とても美味しかったです。お米は細長くて粘り気がなくパラパラしており、日本のお米とは違っていました。お箸は日本のものと比べてとても長く、少し持ちづらかったです。このような流れで1日目の研修が終わりました。いい経験ばかりでとても楽しかったです。

二日目はロンドゥック工業団地視察、富士の桜見学、日本語アカデミー視察、スーパーで買い物などをしました。ロンドゥック工業団地では、“なぜベトナムに進出している企業が増えているのか”や“ロンドゥック工業団地について”詳しくお話を聞きました。日本企業がベトナムに進出している理由は、ベトナムは製造業のコストが低く、賃金が安い、そして若い人が多いからだそうです。そのほかにも、ベトナムのことについていろいろ教えていただき良い体験になりました。

日本料理レストラン富士の桜見学では、現地で働いている日本語を話することができるスタッフさんが実際の状況などについてお話をきき、質問などをしてよい時間を過ごしました。文化や宗教が違う中で、日本で食べられるような料理を出すのは大変だろうなと思いました。見学前には、富士の桜でそろそろ食べたかった日本食をいただきました。お寿司に天ぷら、うどんとお味噌汁、どれもにほんとはぼ味が同じでおいしかったです。

日本語アカデミー視察では、授業見学を兼ねて現地の生徒と交流をしたり、お話を聞いたりしました。現地の生徒との交流では、私たち1人に対し2～3人と日本語会話をしました。高校生かなと初めは思っていたのですが、年齢を聞くと大人の人がほとんどで20代後半から30代の人が多かったです。日本にもう少しで仕事に行く人たちばかりで日本についてたくさん質問をしてくれました。質問されて答えられないこともあったので、日本について勉強不足だなと実感しました。そして、お土産に日本のお菓子をあげるととても喜んでくれて、なかにはたまたま持っていた飴をくれました人もいました。日本の魅力について少しでも伝わっていればいいなと思います。授業見学では、実際の授業の様子がわかり驚くことがたくさんありました。お話では、聞きたいことについてたくさんうかがえたのでよかったです。

最後にベトナムのスーパーに行きました。スーパーは日本とは違い食料品に加えて、洋服、靴、化粧品、時計などが売られていました。日本でなじみがある、明治チョコレート、オレオやコアラのマーチなども売られていました。しかし、コアラのマーチは日本とは違い手に取ってみるととても軽かったです。いろいろなものが売られていたのですごくワクワクしてとても楽しかったです。



3日目の朝、ホーチミンでの最後の朝食をとりました。私は、昨日初めて食べてから気に入ったベトナム料理で有名なフォーを食べました。あっさりしていても美味しかったです。ホテルを出発し、いよいよホーチミン市内の観光です。

まず初めは、統一会堂へ行きました。ここは、ベトナム戦争が終結するまで大統領府及び官邸として使用されていた場所で、現在は一般公開され、国際会議にも使用されています。そして、庭にはテニスコートがありました。驚くことに実際にテニスをプレイしている人がいました。ガイドさんの話では、テニスコートの貸し出しもやっているそうです。私は、大統領など国の偉い人達が集まるような場所でスポーツをするとどんな気持ちになるのか考え、日本で例えると皇居でジョギングをする感覚に近いのではと思いました。

統一会堂の中に入ると橙色や緑色など1種類の色で統一された部屋がいくつかありました。他にも、劇を楽しむための部屋や中に金箔を貼っている部屋もありました。上へのぼって外を眺めていたら、なんと庭に戦車やヘリコプターが展示されていました。ずっと気になっていたのもので後で調べてみたら、襲撃してきたソ連軍のものだそうです。近くで見るとは出来なかったけど凄い迫力でした。次は、下へ降りました。そこには、キッチンや地下室がありました。キッチンには長い机、冷蔵庫や洗い場などがあり、全て銀色で揃えられていました。洗い場の方にある窓から光が差していたので見てみると、そこは外でした。目の前には芝生が広がっています。地上と地下1階のどちらでもないのも、なんだか変な感じでした。地下には、細い通路があり、いくつもの部屋がありました。それらの部屋のほとんどには机、椅子と電話がそれぞれ1つずつあり、人が座った時に通路側を向くように置かれていました。これらは無線室だということだったので、電話を使って指示を出せるようにしているのかなと思いました。他には、世界地図やたくさんのボタンのある部屋もありました。地下やキッチンは私が今まで映画やゲームの中でよく見る景色だったので、とても興奮しました。

次は、中央郵便局へ行きました。局員の女性はアオザイを着ている人が多かったです。ベトナムでは階段は「生→病→老→死→生」の一巡を意識して作られているらしく、この階段も5段でした。1日目にカフェに行ったとき、低い階段で不自然に思っていたのですが、これを聞いて深い意味があると知りました。中はとても広く、自由時間内に全て回ることが出来ません。私は、前、右、左のうちの前へ進みました。目の前にはホーチミンさんの大きな写真が飾られていました。ホーチミンさんの写真はどこに行っても見るので尊敬されていることが伝わります。郵便局らしく切手やハガキが売られている他に、香水、置物やチョコレートもあり、充実していました。チョコレートの試食を勧められたので食べてみたら、美味しかったです。でも、気温がセル氏30度超えているので少し柔らかくなっていました。時間の関係で少し物足りなかったです。



サイゴン大教会は、ヨーロッパで中世に多く建てられたバロック建築の様な作りになっています。この教会は、エフェルさんという人の設計だそうです。今は、改修工事中ですが、使われているレンガがフランス製でフランスから輸入するため、改修工事終了まであと2～3年ぐらいかかるそうです。サイゴン大教会の前には、大きなマリア像がありました。そのマリア像も、フランスで作られてベトナムに輸入されたそ

うです。

なぜこのようにフランスの文化がベトナムの文化に大きく影響しているのかというと、昔ベトナムがフランスの植民地だったためだそうです。そのため、現在でも町並みや建築に、フランス風のものが残っているということでした。

次に、私たちはベンタイン市場に行きました。ベンタイン市場はホーチミンでも大きな市場で、有名な観光地でもあります。時計や服靴、香水などの化粧品や雑貨、食料も売っています。市場の雰囲気はとにかく人が多くて圧倒されました。様々な国の人も訪れていました。市場の値段は通常の値段よりも高めに設定されています。なので、店員さんと交渉します。交渉すると、定価の半額以下の値段で買うことができます。しかし、私は市場で物を買うことができませんでした。理由はガイドさんに市場は治安が悪く、特に日本人はたくさんお金を持っているため、だまし取られると聞いたからです。なので情けないことに怖くて買い物できませんでした。

しかし、友達が買っているのを見て自分も試してみたら良かったなぁと思いました。今度行ったときは、ぜひ挑戦してみたいと思いました。



私たちはファインディンフォン高校を訪問した。この日、私はとても緊張していた。なぜ緊張していたか。それは、私たちが夏休みの終わり頃からずっと作成・発表準備を進めてきたプレゼンにあった。この日のために、私たちは日本の紹介や日高高校のSGHについて、ベトナムへ研修に来た理由などを一つのPowerPointにして、みんなで発表練習をしてきた。不慣れな英語での発表はとても不安で緊張していたが、みんな聞き取りにくいという素振りも見せず興味津々に聞いてくれてうれしかった。また現地の学生さんはネイティブかと思うほど英語がうまくて、私のリスニング能力ではほぼ聞き取れなかった。でも、日本の文化を取り入れた部活があることが分かった時はなんとなく親近感が湧いた。そしてお互いのプレゼンが終わった後は、お菓子をもらったので食べてみた。思っていた味とは違ってとても美味しかった。その後参加した英語の授業で私が驚いたことは、生徒全員が積極的に授業に参加していたことだ。多くの生徒が手を挙げて発言していた。私の周りでは考えられない光景だったから、とても印象に残った。



頂いたおもちみたいなお菓子。
バイン.コ.チュイエン「伝統のおもち」という意味らしい。

お昼からは日本でもおなじみ、イオンモールに行ってきた。日本のイオンは人で溢れかえっているにもかかわらず、ベトナムのイオンは人が少なくとても静かだった。わたしはイオンでベトナム語の本を買おうと思って「おすすめの本ありますか？」と、簡単な英語で聞いてみた。すると…なんと、通じなかった…！でもベトナム語なんてお世辞程度にも話せない私は、表紙だけで選んで買った。びっくりしたのが新海誠さんの『君の名は』があったことだ。勢いで買ってしまったのでこれから読み進めたい。

その後は、ホーチミン廟や旧市街などハノイ市内を観光してホテルに戻った。4日目にして言葉という大きな壁にぶつかった。あの時どうすれば伝わったのか。文字にする？言葉にする？それとも、身体や手・ジェスチャーを使う？私にはわからなかった。でもホテルに着いてふと考えてみた。そもそも自分の思っていることを伝えるための努力をしていたのか。疑問だけが残って、私は積極性に欠けているなど気づかされた一日だった。それでも現地の学校で交流できたことや、異国で買い物をするなど、いい体験ができたと思う。

〈4日目〉

1年1組 岩崎愛佳

4日目の朝にファンディンフォン高校の生徒の皆さんと交流しました。交流内容は、お互いの学校紹介や、英語クラスに参加し、一緒に授業を受けることでした。学校紹介については、放課後に研修団で集まり、自分たちでPowerPointや原稿の作成などしていたので、意気込みました。英語での発表で緊張もしましたが、発表後はすごく達成感がありました。英語クラスで現地の高校生と混ざって授業を受けることで、ベトナムの高校生はこんな感じだと体感できました。交流を通して感じたことは、授業にすごく意欲的だということです。授業形態も日本と異なり、発表が中心の生徒主体の授業形態で、楽しんで勉強しているように感じられました。授業が午前だけということを知り、これが集中して勉強ができる秘訣だと思いました。



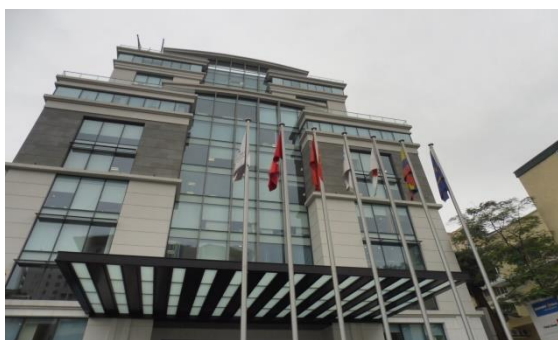
まだまだ交流したい気持ちを抑え、次の目的地であるイオンモールへ向かいました。外見は日本とほぼ変わりなかったのですが、中へ入ってみると、平日ということもあり、買い物客の少なさに驚きました。店舗は見慣れないものが多く、服の買い物はしませんでした。お昼は友達と共にバーガーキングで食べました。セットを頼んだのですが、日本では少なくとも500円はかかる所、ベトナムでは300円もしませんでした。お土産となるお菓子と、後は自分へのお土産として、本屋で現地の雑誌を購入しました。その雑誌を見る度にこの研修が思い出され、良い買い物をしたと思います。

次にハノイ市内の研修をしました。一番印象に残っているのはホーチミン廟で、ホーチミンさんのお墓の大きさに驚きました。さらに、お墓の入り口には、軍隊さんが常時警備していて、徹底されているなと思いました。丁度、軍隊さんが交代するところを見ることができました。行進の仕方がまるでロボットのように全く人間味が感じられませんでした。しかし、一人だけ普通に歩いている軍隊さんがいて、行進している軍隊さんの一人に笑いながら話しかけていました。ガイドさんに何を言っていたのか聞くと、お元気ですかと言っていたそうです。

その後、世界遺産であるタンロン城址や、主要な景観スポットであるホアンキエム湖、フランス統治時代の趣を残す旧市街などを散策しました。

夕食を済ませ、ホテルへ向かいました。4日目ということもあり、疲労感が大きかったです。特に充実した1日だったので、昨日までの日本シックもなくなり、ベトナムにもう少し滞在したいと思いつつ、床に就きました。

午前中ハノイにある JICA のベトナム支部を訪問しました。JICA とは Japan International Cooperation Agency の略で独立行政法人国際協力機構法に基づいて、2003 年に設立された外務省所管の独立行政法人です。目的は、開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することです。ここでは JICA のベトナムでの活動について講演を聞きました。



私たちが目に見てわかる JICA のベトナムへの貢献は、ベトナムでの地下鉄建設、空港へのアクセス道路の建設などです。空港へのアクセス道路にはハノイ市内の紅河に架かるニャッタン橋も含まれており、ニャッタン橋が「日越友好橋」と呼ばれる理由がわかりました。建設の際にかかる費用については、無償資金援助と有償資金援助のどちらかで JICA からベトナムに支援されます。この時、返済計画を同時に作ることで返済が滞らないようにすると言っていました。

そして、小林さんが実際に現地に行って感じた事をお話しして下さった時に、支援をしてもその恩恵を受けられる量には地域などによる差があると言っていました。例を出すと、ある場所に水路を建てた時、上流地域と下流地域とでは豊作



であるところが上流地域の方が多くみられて、差が生じるということです。また、ベトナム研修の1日目にお会いした溝口さんのような青年海外協力隊の活動も JICA が行う支援の一環だそうです。小林さんのお話の中で JICA の活動について以外にも興味をそそるものがありました。ベトナム人の音楽事情の話では、ベトナム人は一般的に音楽能力があまり高くなく、日本の音楽会社が支援しているということを知りました。音楽能力が低い原因としてイントネーションの違いが挙げられます。また、韓国には JICA に名前がよく似た KOICA (韓国国際協力団) という機関があるということや支援物資の備蓄倉庫はシンガポールにあり大きさは飛行機2機分に積める量ぐらいであることを知りました。

JICA から出発した後、私たちはバスでチャンアン自然保護区へ向かいました。片道2時間と少し離れていました。途中で川を渡った時には、川は幅が広く流れが緩やかなため船での交通の様子を見ることができると、日本と違った東南アジアの自然、人々の生活、交通事情などを見ることができました。

そして、チャンアン自然保護区に近づくにつれて車窓の景色に変化が出てきました。平地の中に明らかに不自然な巨大な岩山が現れたのです。岩肌が白く、一つ一つが独



立して点々と存在していました。この光景は「タワーカルスト」と呼ばれるものです。タワーカルストとは石灰などでできた山が溶け残った部分です。目的地に到着するとまず昼食をとりました。レストランではヤシの実ジュースを飲むことができました。ヤシの実ジュースは少し甘くミルクのような飲み物でした。

食事をとった後、私たちはタワーカルストとタワーカルストとの間を縫うように流れている川を小舟で遊覧するツアーに参加しました。私たちは救命胴衣を着て小舟に乗りました。小舟は四人乗りで、現地の女性のスタッフが一人で漕いでくれました。そこはとても幻想的な場所で日本での忙しい生活を忘れさせてくれるような自然の神秘がありました。川はタワーカルストを貫いて鍾乳洞を作っていました。私たちを乗せた船は鍾乳洞のなかを抜けていき、日本では経験できない大自然の壮大さを感じることができました。



チャンアン自然保護区を出発して、また二時間かけてハノイ市内の晩御飯会場に向かいました。ベトナムでの最後の晩御飯は、ハノイで1番高級なレストランといわれているところで食べました。ここでは、自分たちが日本でも行ったことのないような場所で緊張しました。メイン料理は、肉か魚のどちらかを選んで食べました。料理の中にフランスパンなどがあり、フランス文化の影響を感じられました。

晩御飯を食べた後、ノイバイ国際空港に向かいました。空港に向かう途中、ガイドさんから今のベトナムの話を知りました。その中の一つで、ベトナム人の苗字には、昔の王朝の名前が使われている話には驚きました。その後、空港に着きガイドさんのお別れを済ませて搭乗手続きをしに行きました。自分たちの飛行機が出国するまで約3時間ありました。夜中ということもあってか、みんな疲れていてあまり元気はありませんでした。空港の中にはお土産店やフードコーナーなどがあり、それぞれが待ち時間を思い思いに過ごしました。

日本に向かう飛行機の中では、ほとんどの人が寝ておりとても静かな空間でした。そして、機内で朝ご飯を食べて帰国しました。飛行機から降りた後入国し審査をして預けた荷物を取りに行きました。その後、先生からの連絡事項などを聞いて、ベトナム研修が終了しました。

ドイツ研修

日程

第1日目 3月15日(木)

地名	現地時間	日程・留意事項
関西国際空港	09:30	関西国際空港集合
	11:45	AY78 便にてヘルシンキ空港へ出発
	15:10	ヘルシンキ空港着 乗り継ぎ
	16:30	AY1513 便にチューリッヒ空港へ出発
	18:20	チューリッヒ空港着
	19:30	チューリッヒ空港発 専用自動車ホテルへ
	21:00	コンスタンツホテル着

第2日目 3月16日(金)

地名	現地時間	日程・留意事項
コンスタンツ	09:30	Wessenberg 校登校 開会式 協働学習 (Wessenberg 校生徒作成観光アプリについてのプレゼン) 昼食
	13:00	市内見学(アプリ体験)
	17:00	ホテル着

第3日目 3月17日(土)

地名	現地時間	日程・留意事項
コンスタンツ	08:30	ホテル出発 鉄道、バス
ライヒナウ島	10:00	世界遺産ライヒナウ島 教会見学、徒歩にて島を半周する 昼食
	14:00	ライヒナウ島出発
コンスタンツ	15:30	ホテル着 研修記録記入、準備

第4日目 3月18日(日)

地名	現地時間	日程・留意事項
コンスタンツ	08:00	ホテル発 徒歩
	08:30	コンスタンツ港着 フェリー
	09:00	フリードリヒスハーフェン着
	10:00	ツエッペリン博物館見学 フリードリヒスハーフェン市内見学
	14:00	フリードリヒスハーフェン発 フェリー
	15:00	コンスタンツ港着 コンスタンツ市内見学
	18:00	ホテル着

第5日目 3月19日(月)

地名	現地時間	日程・留意事項
コンスタンツ	09:30	Wessenberg 校 着
	09:45	協働学習(難民問題, 持続可能な観光開発, 女性問題)
	15:30	Wessenberg 校よりホテルへ
	15:50	ホテル着 記録整理、準備

第6日目 3月20日(火)

地名	現地時間	日程・留意事項
コンスタンツ	08:30	Wessenberg 校 着
	09:00	協働学習まとめ
	14:00	文化・スポーツ交流
	18:00	送別会
	20:00	Wessenberg 校よりホテルへ
	20:20	ホテル着

第7～8日目 3月21日(水)～22日(木)

地名	現地時間	日程・留意事項
コンスタンツ	21日	朝食
	07:00	ホテル出発 専用自動車で空港へ
チューリッヒ	08:40	チューリッヒ空港着
	10:55	チューリッヒ空港発 AY1512 便
ヘルシンキ	14:45	ヘルシンキ空港着
	17:25	ヘルシンキ空港発 AY77 便
大阪	22日 10:00	関西国際空港到着
	11:00	解散

ドイツ・コンスタンツについて

ドイツ(正式名称:ドイツ連邦共和国)はヨーロッパ大陸のほぼ真ん中にある国で、ポーランド、デンマーク、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フランス、スイス、オーストリア、チェコの9つの国に囲まれて、北側は北海とバルト海に接しています。日本に比べると湿気が少ないので、夏は涼しくとても過ごしやすいです。時差は8時間(サマータイム中は7時間)。面積は35万7021㎢で、日本(37万8000㎢)より少し狭いです。人口は8200万人で、16の州に分かれています。コンスタンツはそれらの中のバーデン=ヴュルテンベルク州に属しており、面積は55.65㎢。これは御坊市(43.78㎢)の約1.3倍の広さです。人口は約8万人。スイスとの国境の街であり、実際に私達もスイスのチューリッヒ空港からコンスタンツに移動しました。



学校交流

・プレゼン

学校交流一日目に田辺高校が和歌山県について、二日目に田辺、星林、日高がそれぞれの学校について、また日高高校が和歌山クラスターについての発表を行いました。発表内容は3校それぞれ違いますが、田辺高校が学校紹介で行ったラジオ体操は大変盛り上がりました。一方ドイツのヴェッセンベルグ校は、自分たちで開発した携帯電話アプリについての発表を行いました。私達もアプリをダウンロードし、実際に体験しました。アプリを開くと大きくコンスタンツの地図が表示され、自分の目的や要望を選択すると、それに合った施設の表示がされ、その評価も分かるようになっています。その後実際にそのアプリを使い、市内散策をしました。

・市内散策

学校交流でダウンロードしたアプリを片手に、市内を散策しました。ドイツ・コンスタンツについてでも述べたように、コンスタンツは国境の街なので、目の前にスイスが見えました。ですが、あまり国境という感じはしませんでした。国境には、ドイツ、スイスの国境と書かれた小さな看板とたくさんの赤いモニュメントが立っていました。周りは広い原っぱになっており、簡単に国境を越えることができました。日本で生活していると絶対に出来ない貴重な経験ができました。後日、私達がドイツの学生が作成したアプリを使って市内を散策している様子が地元の新聞に掲載されました。

・ディスカッション

今回の研修で最も重要だと言えるのがドイツの学生とのディスカッションだったと思います。私たちは「移民・難民」「観光」「女性の社会進出」の三つのテーマについて英語で話し合いをしました。

<移民・難民>

まず、「移民・難民」のディスカッションではドイツと日本の難民たちに対する考え方の違いをよりはっきりと感じました。日本は現在、ほとんどの難民を受け入れていないのに対しドイツはたくさんの難民を受け入れています。そこで私は「税金がたくさん難民の人々に使われていることに対してどう思っているのか」と聞いたところ、ドイツの学生は「同じ地球の人間なのだから、助けるのは当たり前のこと。国境なんて関係ない。」とはっきり答えられていたことが印象に残っていて、まさにその通りだけど、そうはっきり答えられるのはすごいと感じました。

<観光>

その次に「観光」についてのディスカッションでは、土曜日に訪れたライヒナウ島で私が感じたことも交えつつ話し合いを進めました。ライヒナウ島は世界遺産であるにもかかわらず観光客はあまりおらず、行くまでの道にも特に目立った看板もなく、日本の観光地とは違った様子でした。そのことについて学生さんに聞くと「ライヒナウ島は自然を守ることを一番に考えていて、あまり観光客を増やそうとはしていないんだよ。」と言っていました。驚きもありましたが、それが本来の世界遺産のあるべき姿なのかもしれないと思いました。

<女性の社会進出>

最後の「女性の社会進出」のディスカッションでは、社会での男女格差やジェンダー問題について話し合いました。ドイツでも未だ共働きでも女性の方が家事をする割合が多い、など日本の現状と似ている部分もありましたが、育休や産休などに対する考え方は違ったようで、実際に私たちが訪れたヴェッセンベルグ高校の先生には、0歳のお子さんがいながらも旦那さんと育児を交代して週二日学校に授業をしに来ている方もいました。交代で育児をするというのはお互いのキャリアに影響が少なく、日本でも取り入れるべきだと思いました。

ディスカッション全体としてはドイツの学生さんにひっぱって行ってもらった面も多かったですが、つたない英語でも自分が言いたいことは伝えられました。学生さんたちの実際のリアルな声が聞けて良かったです。

・フェアウェルパーティ

そしてドイツで過ごす最後の夜には、現地の学生の皆さんがピザやケーキをたくさん用意してくれてフェアウェルパーティという送別会を開いてくれました。お互いの連絡先や、SNSを



交換したり写真を撮ったりしてたくさん話もできました。そのあと知っている洋楽の話になり、ドイツの学生が音楽を流し始めると自然とみんな踊りだし楽しく過ごせました。言語が違っても、ダンスや音楽を楽しむ心は同じなのだなあと思いました。最後に日本の学生から「世界に一つだけの花」の合唱を披露しました。歌っているときは「もう会えないんだなあ」という寂しさがこみ上げてきました。

2年5組22番 狩谷 朱音

観光

・ライヒナウ島散策(3日目)

私たちは、世界遺産登録されているライヒナウ島に行きました。世界遺産登録されている割に、質素でのどかな雰囲気でした。島の手前にある、聖ゲオルク教会というところを訪れたのですが、そこでパイプオルガンの演奏をされている女性がいました。きれいな音色で聞き入ってしまいました。



・フリードリヒスフェーベン散策(4日目)

ここでは、チェッペリン博物館に行きました。チェッペリンというのは、世界で初めて旅客を運ぶ商業航空会社を創立した人の名前だそうです。ここでは、実物大の飛行船のレプリカを見たり、飛行船の歴史を辿ったりすることが出来ました。

・コンスタンツ市内観光、買い物

私たちは、コンスタンツ市内で自由散策をしたり、スーパーやデパートに買い物に行ったり、ボーデン湖の周辺を散策してみたりと様々なことをしました。2日目には、カトリック教の大会堂に行ったり、スイスとの国境に行って皆で写真を撮ったりしました。教会の中、周りなど至る所にイエスの磔刑の像があり、不思議な感じがし



ました。また、国境に行くことは、日本にいる限りは体験出来ないことなので面白いなと思いました。3日目の自由散策では、少し小さなイオンのようなLAGOで買い物をしたのですが、ホテルまで帰る道が分からず若干迷子になったりもしました。しかし、海外で、全くの自由散策というのはなかなか出来ない事なので、とても楽しかったです。

感想

私は今回の海外研修で、主に3つのことを学びました。1つ目は協力し合うことの大切さです。今回のドイツ研修は和歌山クラスターの活動の1つだったので、星林高校、田辺高校と合同で行きました。最初はこのことに若干抵抗があったものの、日を重ねていくごとに分からないところを教えあったり、お互いの部屋を行き来する仲に

なったりしました。英語のディスカッションは、私一人の力では深い所まで話し合うことは出来なかったと思います。2つ目は、諦めないことの大切さです。ヴェッセンベルグ高校の生徒は、英語のスキルも積極性も私たちより断然高く、言っていることが理解出来ないことがありました。しかし、現地の人が粘り強く伝えようとしてくれたこと、私たちが諦めずに何度も聞き返したおかげで、やっと理解することが出来たりもしました。3つ目は、積極性です。日高高校の生徒は、他校の生徒に比べて若干積極的に話しかけるのが苦手な子が多く、フェアウェルパーティではどんな会話をしたらいいのか分からず、かなり苦戦したりもしました。しかし、他校の生徒が一生懸命話しかけているのを見て、私も頑張ろうという気になりました。この経験を糧にしてこれからも頑張っていきたいです。

姉妹校交流

中国 西安中学訪問

本校生徒の中国長期留学をきっかけに姉妹校提携が結ばれた西安中学に、今回6度目の訪問団（生徒5名、引率2名）が本校から派遣された。

1日目（10月30日）



2年5組 津井田康薫

僕たちはこの日、約六時間かけて関西国際空港から西安へ向かいました。正直、この時点で、僕は中国に行くことに対してかなり不安でした。というのもテレビなどから入ってくる情報でよい情報などかなり少ないものだったからです。行こうと思ったきっかけは、と

にかく海外に行きたかったということ、友達や先生から人数が不足しているためさそわれたこと、実際に前回の西安訪問団に参加した友達から良い話をたくさん聞いたことです。それでもまだ僕は不安をぬぐいきれないまま西安へ向かいました。

西安に到着した第一印象は震でした。中国は大気汚染のイメージが強かったのでやはり空気が悪いのかと思いましたが、結局五日間のどなどに全く影響はありませんでした。もう一つ思ったことは高級車が非常に多く走っているということです。みなさんはベンツが信号で五台連なって止まっているのを見たことがありますか？それぐらい国内外の高級車が多く経済面の豊かさを感じました。また西安中学校でまず感じたのは「でかい」それにつきました。門の前には警備員?の人たちも多く立っており、学生証を見せないと入れないシステムになっていました。下手な大学よりも規模が大きく、セキュリティー面も完璧だったのでただただ驚かされるばかりでした。その後歓迎会を開いてくださり、そこで僕たちはホストブラザー、シスターと対面しました。この時が一番緊張しましたがとてもフレンドリーで優しく接してくれたので安心しました。しかし、その後もう一つの大きな不安ポイントがやってきました。食事です。前回行った人たちからも「よかった」という声はかなり少ないものでした。しかし、その不安も必要ありませんでした。僕はホストファミリーにおそらく高級な西安料理店に連れて行ってもらいました。確かにメニューにはウミウシ?や、さそりなどかなり危険そうなものも含まれていましたが、それ以外はいっておいしそうなものばかりで、満足に味わって食べることができました。以後四日も食事がまずいと思うことはほとんどなく、むしろ日本でいるより多く食べてしまう結果となりました。一日目だけでも中国の人たちの人柄、環境、食事など日本でのイメージをがらりと変えることができました。



2日目（10月31日）

3年A組 阪本淑恵

今回私が西安交換留学で学んだことは、違う文化を持つ国の人々と直接かかわることの重要性です。日本とは大きく異なる人間性は、現地へ行って触れなければ分からないことであると感じました。

私たちは2日目、朝から学校で授業を受けました。「日本人」ということもあって、クラスメイトに受け入れてもらえるか少し心配でしたが、そんな心配は全く必要ありませんでした。私たちに興味を持ってくれていて、話しかけてくれたり、お菓子をくれたりととても親切にしてくれました。主にほぼ全ての授業が中国語だったため、内容は全く分からず、初めは戸惑ってばかりでした。おまけに授業が高校内容なので、さらに理解できませんでした。授業に対する感覚がもはや日本と違い過ぎるため、授業中に教室を出て行ったり、お菓子が回ってくるといったことが平然と行われている現状に驚くばかりでした。一日に授業がたくさんあるため、授業に出席する感覚が大学に近いのかなと考えたりもしました。



午後からは校内見学があり、学校内にある西安の自然を紹介するための記念館を見学させていただきました。西安省に生息する世界的に希少な動植物などの模型や写真が展示されていました。西安省の奥の山間には野生のパンダも生息しているそうで、それらはとても珍しいと説明して下さいました。西安中学校の生徒達が、大学と協力してそれらの模型などを制作したそうです。中には、私たちにはなじみ深い有名な海の動植物などの模型も展示されていました。なぜそのような動植物が展示されているのか気になり質問すると、西安は内陸に位置しているため、生徒たちの大多数は海を見たことが無いからだそうです。生徒たちが実際に採集した昆虫などの標本も、たくさん展示されてい



ました。その後西安中学校の先生と何人かの生徒たちと一緒に、環境問題、特にごみ問題について意見交換をしました。西安では近年ごみ問題に力を入れ始めているようで、日本でのごみに関する工夫などがあれば教えて欲しいとのことでした。私たちはそこで日高高校で行っているペットボトルリサイクルや、ごみの分別などを話しました。西安では「ごみをごみ箱に捨てる」という習慣がもともとあまりないようで、街を歩いていると道端にごみがたくさん落ちているのを見かけました。大きな道路沿いなどには燃えるごみと燃えないごみが分別できるごみ箱が設置されていましたが、全く分別されておらず、あまり意味のない状態になっていました。私がホストファミリーと夜市に行った時は、道にごみが大量に積み上げられてあり、とても驚きました。ホストシスターにこれらのごみはどう処理しているのかを尋ねると、これらを回収する専門の仕事の人がいると言っていました。ごみを道に捨てるということが当たり前になっていることがよくわかります。西安中学校の先生から「日本

でのごみの分別などは、学校などで学習するのですか？」と質問されました。しかし私たちは学校で習うのではなく、家庭などで親を見て学びます。幼少期からそれが「当たり前」になっているので、ごみに対する感覚が違うことをありありと感じられました。

これらのことは、実際に行って、見て、触れなければ感じる事が出来なかったことなのだと思います。西安に行って見たもので、驚いたことはまだまだたくさんありました。その「事実」から、その地域の人々の考え方や人間性の違い、文化の違いが見えてくる。それが本当に交換留学の重要性、そして楽しさの理由だと思います。日本に入って来る中国の情報では知ることの出来ないような人間性が、私の視野を広げてくれたと感じました。



3日目（10月31日）

2年3組 中前桃香

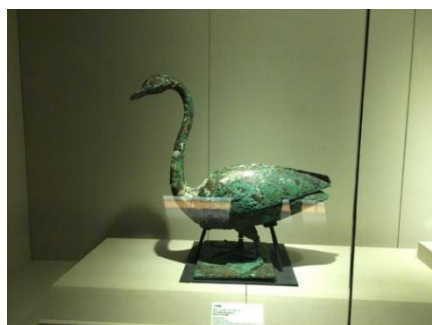


3日目は、観光です。この日は学校で1時間だけ授業を受けてから西安市内を観光しました。学校からはバスで移動しました。西安の町並みは日本と違い、高層マンションがたくさん建ち並び、一軒家はほとんどなかったように思います。実際、私のホームステイ先の家も高層マンションで、最初見たときはすごく驚きました。西安市内をバスで観光していると、女の人が集まって踊っているなど日

本と違う文化や西安独特の習慣などを見ることができ、バスに乗っているだけでも観光を十分楽しむことができました。私が写真を撮るのに夢中になっていると、あっという間に最初の目的地である陝西歴史博物館に着きました。この博物館はすごく大きな建物で、館内もすごく広くてきれいでした。ここでは中国古代の遺物が時代別に展示されていて、それぞれの歴史に沿って中国の深い文化を学ぶことができました。展示品の中には当時の生活や服飾、娯楽を知ることができる物もたくさんありました。その中で私が一番印象に残っているのは兵馬俑です。この博物館に展示されている兵馬俑は、兵馬俑博物館よりも近くで見ることができすごく迫力がありました。兵馬俑は一体一体、表情や髪型が異なっていてその違いから当時の位などを想像することができて面白かったです。この博物館に来てすごくよかったです。でも、ここで土産を買えなかったのがすごく残念でした。

次に、秦始皇兵馬俑博物館に行きました。この博物館はテレビや教科書で何度か見たこともあって私がすごく楽しみにしていたうちの一つでした。館内に入ると、そのスケールの大きさに圧倒されました。実際に見ると、自分が想像していたよりもずっ

と迫力があって、すごく感動しました。兵馬俑の兵士の身長は等身大で平均180センチもあるらしく、それをこれだけたくさん作ったうえに戦車や馬も作った昔の人たちはほんとにすごいなと思いました。この博物館は世界的に有名なためか人もすごく多かったです。写真を撮るときは、ほかの観光客に負けずに積極的に前に行かないといい写真が全く撮れませんでした。私は最初ほかの観光客に圧倒されて全然前へ行けなかったけれど、友達がいい場所を譲ってくれたので何とかいい写真を撮ることができました。私一人だったら絶対に無理だったなと思いました。写真も撮れて館内を回っているとまだ発掘途中の場所がありました。兵馬俑の発掘はすべて手作業で行われていて、これだけもの兵馬俑をすべて手作業で発掘したと想像するだけで気が遠くなりそうでした。

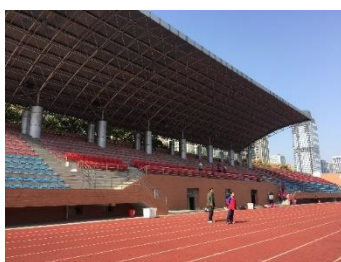


私は、この二つの博物館を訪れることができて本当によかったと思いました。また、中国の歴史や文化も学ぶことができすごくいい勉強にもなりました。日本に帰ったらこの博物館のすごさを家族や友達に伝えて、実際に訪れたことなどたくさん自慢しようと思いました。この5日間、中国を訪れて初めて知ったことや改めて感じたこと、

興味を持ったことなどたくさん経験をすることができました。中国を訪れる前は、周りの人の中国に対するイメージがあまりよくなくて私自身もそうで不安でいっぱいだったけれど、実際訪れてみると現地の人はすごく優しく、私のホームステイ先の家族もこっちが申し訳ない気持ちになるくらい良くしてもらいました。中国での思い出はすべてがいい思い出です。今回中国を訪れることができて本当に良かったです。絶対にまた訪れたいなと思いました。



4日目（11月1日）



2年5組 山本侑加

4日目は、午前中は授業を受け、午後からは校内見学をした。午前の授業では体育、パソコン、美術、音楽の授業などの実技教科を西安中学の生徒と一緒に受けた。体育の授業では800メートル走の試験をしていた。運動場の規模はとても大きく、トラックは一周400メートル、観覧席までついていて、日本の高校でこの規模の運動場を見る

ことはほばないだろう。ホストシスターが走っている最中は、他のクラスの生徒が代わる代わる話しかけてくれた。積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢には学ぶものが多くあった。パソコンの授業では簡単なゲームの製作を通じて、プログラミングの勉強をしていた。ゲームという親しみを持ちやすい題材を用いているところに、先生の授業に対する工夫が見られた。生徒たちは楽しんでプログラミングを学んでいた。美術の授業では、西安の伝統的な芸術に関連して、「喜」の字を切り絵で作った。授業形態は日高高校の美術の授業と似ていて、先生の説明を聞いて、各々製作を始めるというものだった。音楽の授業では、互いの国で有名な曲を披露し合った。私たちは「ふるさと」と、SMAPの「世界に一つだけの花」を披露した。また、中国の伝統舞踊、「水袖舞」の映像を見たり、その衣装を着せてもらったりした。音楽室には一人ひとりに割り当てられた机と椅子は無く、階段状の舞台の好きなどところにみんなそれぞれ腰を下ろしていた。



ここまでの実技教科の授業で印象に残っているのは、ほとんどの生徒が楽しそうに、また積極的に授業に参加していたということだ。日高高校でも、西安中学生のような積極性が見られればと思った。

校内見学では、生徒の引率で学校を一週回った。5階建ての校舎が3棟、芸術棟、食堂や先に述べた運動場など、やはりすべてにおいて規模が大きい。また、生徒の制作物を展示する部屋があった。その制作物とは、芸術的なものであったり、科学的なものであったり、また生物の標本であったりとさまざまであった。自分の興味のある分野に専門的に取り組めるのはとても良いことだと思ったし、自分のやりたいことができる環境が整っていることに羨ましさを感じた。案内してもらっている途中で、広さに驚いたことを日高高校と比較して伝えると、逆に驚かれてしまった。彼らにとって1学年に30近くのクラスがあるのが普通なのだから、私たちの1学年に6クラスという状況は考えられないものだったのだろう。

校内見学を通じて印象に残っているのは、引率してくれた生徒が完璧に英語を使っていたことだ。きっと彼らは、やりたいことができる環境の中で、英語をやりたいこととして技術を磨いてきたのだろう。胸を張って第二言語は英語であると言える様子



だった。自主性をもって取り組んだことに対して持てる自信はやはり大きい。そして大多数の西安中学校の生徒は、何かしらに対してこの自信を持っているように私は思えた。これに興味があります、これに自信がありますと明言できる人が魅力的な人物になり得るのだ。西安中学校は、そんな魅力にあふれた人が育っていく場所なのだと思う。

5日目（11月2日）

3年B組 源地菜月

私は中国での五日間で多くのことを知り、学びました。それらは日本でいるだけでは、体験できないものばかりです。外国人との交流の楽しさであったり、友達の輪を広げることの素晴らしさ、英語の大切さなど、当然でありながらも重要なものたち…。これらは、きっとこれからの私の人生に役立つものです。今回、学校が主催するこのようなプロジェクトに参加して



いなければ体験できなかったものもたくさんあると思います。特にホームステイの経験は自分の力だけでは得られにくいものです。ホームステイは直接、外国の文化に触れることができる一番の方法だと思います。しかし、このホームステイが理由でチャレンジをためらう人も中にはいるのではないのでしょうか。私もその一人でした。自分の知り合いが一人もいない、周りのだれにも日本語を話す人がいない。そんな環境、確かに不安はとても大きいです。英語にあまり自信のない人ならためらうのは当然でしょう。しかし、絶対なんとかできます！確かに英語が上手であることに越したことはありませんが、身振り手振りで伝えたり、最終的には翻訳アプリを使うことだってできます。そんなコミュニケーションも今では楽しい思い出です。私がホームステイに抱えていた不安は、言語ともう一つあります。ホームステイ先のご家族です。日本では、あまり中国の評判はよくありません。あまり良くないイメージを研修前の私は持っていたので、少し不安を抱えながらホームステイに挑みました。しかし、本当に優しい方ばかりで驚きました。反日が強い国だと思っていたのですが、日本語で頑張



って話しかけてくれる子や日本のアニメや漫画について話してくれる子がいて、今まで持っていたイメージが真逆であったことに気づかされました。それらは実際にその国を訪ねてみなければ絶対にわからなかったことです。今回の中国訪問の研修を通じて私は世界に前向きになれました。研修後も向こうで知り合った子たちとのコミュニケーションは続いています。少し前の私には想像もできないことです。これからもこのような研修、また留学生の受け入れなどにも積極的に取り組んでいこうと思っています。

デンマーク王国 フレデリクスハウen高校来校

1. 交流の経緯

フレデリクスハウen高校があるフレデリクスハウen市と、御坊・日高地方とのかかわりは60年前に遡ります。1957年2月10日、日ノ岬沖を航行していたデンマークのエレン・マースク号が、炎上する日本漁船に遭遇しました。海に投げ出された日本人船員を目にしたヨハネス・クヌッセン機関長は、わが身を顧みず荒れ狂う海に飛び込み、命を落としたのです。地元の人々は彼の勇気ある行為に胸を打たれ、事故現場を見おろす日ノ岬パーク内に顕彰碑と胸像を建立し、日高町田杭地区には、大破した救命艇の保管庫を建て、その遺徳を偲んでいます。



このクヌッセン機関長の故郷フレデリクスハウen市は、ユトランド半島北部に位置する人口およそ24,000人の港町です。事故から50周年にあたる2007年8月、市のバングスボー博物館にクヌッセン機関長記念コーナーが設置され、その除幕式に和歌山県、美浜町、日高町から関係者が出席しました。その折に、「今後の交流については高校生同士の手で」というお話をいただき、在デンマーク日本大使館の紹介を経て日高高校とフレデリクスハウen高校との交流が始まりました。

フレデリクスハウen高校は生徒約800名、教員約80名で、特に生物学、クリーンエネルギー学、海洋学に力を入れている学校です。またヨーロッパ諸国に複数の提携校を持ち、国際交流にも精力的です。

2010年11月に日高高校から初めての訪問団を派遣し、2011年にはフレデリクスハウen高校からの訪問団を受け入れました。その折、姉妹校提携を結び、今日まで互



いが毎年訪問団を派遣・受け入れしながら友好を築いています。今回のフレデリクスハウen高校訪問団来校は4回目となりました。2012年より本校のスーパーサイエンスハイスクール事業の取り組みとして研究テーマを設定し、お互いの取り組みや研究成果を発表しました。このような取り組みは国際感覚の育成と科学的な視野の広がりに大きく役立っていることと思います。

2. 交流日程と訪問団構成

(1) 2017年10月16日(月)～20日(金)の5日間

(2) 高校生10名(男子4名 女子6名)・引率教員2名

Students : Joachim Harding / Lucas Grimstrup Jensen / Mads Norman Kaae Jensen
Mathias Heilesen Stæhr / Sandra Cecilie Bering Tietze / Karoline Thirup
Sofie Fuglsang Hyllen / Emma Bøgeskov Rasmussen / Veronica Kringelholt Vinter
Nanna Møller Sørensen

Teachers : Hans Ulrik Vadmann / Thorkild Bjerre Christensen

(3) ホストファミリー

3年3組	清水輝太	3年5組	出立直也	3年5組	望月春菜
3年6組	稲田和奈	2年5組	上田詩織	2年5組	森部凜音
2年6組	樫原佑実	1年3組	喜多海斗	2年1組	栗林愛結
中3B組	源地菜月				

(3) 日程概要

日次	月日	時間	場所	内容
1日目	10/16(月)	17時40分 19時30分	移動	訪問団、関西国際空港に到着 訪問団、日高高校に到着 ホストファミリーと合流し、各家庭に帰宅
2日目	10/17(火)	1限目 2, 3限目 4, 5, 6限目 放課後	校内 校外 校内	歓迎式 校内案内 授業(高2体育・高1芸術) 地質・防災学習の校外研修(白崎海岸、戸津井鍾乳洞、稲村の火の館) クラブ見学
3日目	10/18(水)	午前 午後 放課後	校内	授業(高1英語・自然科学特別授業・調理実習) 授業(中3コミュニケーション・高2総合学習) 生徒交流会
4日目	10/19(木)	午前 6, 7限目 放課後	校外 校内	美浜町・日高町のクヌッセン機関長ゆかりの地を訪問、両町長と懇談。 道成寺見学(絵とき説法と散策) 授業(自然科学特別授業) 箏体験(箏曲部)
5日目	10/20(金)	朝	校内	ホストファミリーと一緒に玄関で記念撮影 お別れ

3. 写真記録

歓迎式



高校での授業交流





附属中学での授業交流



校外研修



クヌッセン機関長縁の地





道成寺見学



生徒交流会



箏体験



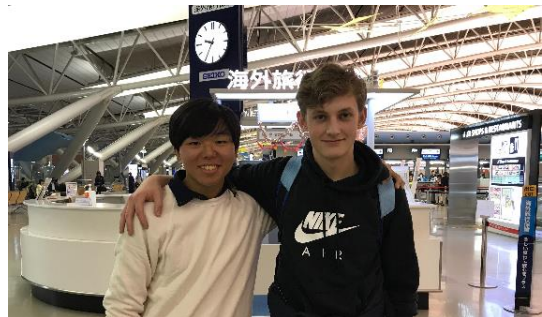
ホストファミリーと



4. ホストファミリー生徒の感想

3年5組 出立 直也

僕は昨年度のデンマークでお世話になったヨーキムを今年度ホームステイで受け入れることになった。1年間会っていなかったので楽しみよりは緊張感の方が大きかった。初めてホストファミリーの受け入れをしたので、家族も少し戸惑っていたが、ジェスチャーや簡単な英単語を使って、コミュニケーションを取り、次第に打ち解けていった。



この1週間放課後は楽しいことがたくさんあり、彼らと僕達ホスト全員で夕食に行ったり、学校で歓迎会などがあったり、予定がぎっしり詰まっていた。楽しいことばかりではなく少し残念なこともあった。みんなで夕食に行った時、時間に余裕があったのでショッピングセンターに立ち寄り、その中で自由行動になった。基本的に、僕達はホームステイをしている人と一緒に行動することになっていたが、ヨーキムに「自分達で行動するから、一緒じゃなくても大丈夫」と言われた。気遣いのつもりで言ってくれたのかもしれないが、僕は少し心に傷がついたような気がした。もしここで英語がスムーズに話せたなら、「これは僕の役目だから一緒に行くよ」と言えたのに、それができなかった。また歓迎会でグループに別になった時、他のグループがとても盛り上がっているのを見て、僕も何か話しかけようと思ったが、それもできず僕達のチームは沈黙が続い



たりして、申し訳ないと思うこともあった。このような経験もあったが、ちょうど10月の祭りシーズンだったので近くで練習をしていた獅子舞を見に行き写真を撮ったり、舞っている姿を動画に収めたりしていた。親戚の寺の本堂の見学などもした。その時ももらった数珠を気に入ってくれたようで、ずっと身につけてくれていた。また別の日には僕の友達を家によんで人生ゲームをしたこともあった。ゲームのカードはすべて

日本語で書かれているのでそれを英語に訳すのが大変だったが、友達と一緒にたくさんの単語を出し合って、理解してもらった。このような楽しい時間はあっという間で、すぐに別れの時が来てしまった。前年僕がデンマークのホストファミリーと別れた時と同じように、また泣いてしまった。その後の授業は放心状態になり、とても憂鬱な時間であった。

今回彼らと弾むような会話ができず、はがゆく悔しい思いもしたので、これから大学で語学を学びもっと会話力を身につけ、またデンマークに行きたい。

デンマーク訪問団のホームステイを受け入れて



2年1組 栗林 愛結

私が今回の受け入れを希望したのは、外国人と密に交流がしたかったからです。普段の学校の授業では、外国人と話す機会がありません。ですから、受け入れることで、私にとって良い体験になれば良いと思い、思い切って受け入れることにしました。

でも、受け入れると決めたものの、私の拙い英語で通じるのか、日本食が口に合うのか・・・。

など不安もたくさんありましたが、そんな不安は Veronica と会った途端に吹き飛ばしました。彼女と5日間も一緒に過ごせると思うと、とてもわくわくしてきました。長時間のフライトのせいもあったのか、初めは緊張しているように見えました。だから、「今日からあなたは、私の家族の一員だよ！」と伝えるとにっこりと微笑んでくれて嬉しかったです。

1日目の夕食は、彼女が食べたいと言っていたお寿司とみそ汁でした。デンマークにはないネタがたくさんあったらしく、説明することが難しかったです。また、「お箸を使って食べたい！」と言っていて日本の文化に興味をもっているのだな、と思い嬉しく思いました。普段私たちが目にする物全てが、新鮮に見えたらしくその日は質問攻めに合いました。朝起きると、隣に彼女が寝ていて、昨日の出来事は夢ではなかったのだな、と思いました。夢にまで見ていたホームステイの受け入れが現実になって、本当に良かったと思いました。滞在中に、浴衣を着て写真を撮りました。その日は、彼女に会いたいと言っていた友達も来ていたので、浴衣姿を披露できて良かったです。

このような普段することができない貴重な体験ができたのは、デンマーク人のヨハネス・クヌッセン機関長のおかげです。彼が自分の命を犠牲にしてまで、日本人を救おうとしてくれたことで、現在も両国が友好の絆で繋がっていると思います。

これを機会に、学校で国際交流があれば、ためらわずに参加したいと思います。これを決めるまでは、迷いや不安がたくさんありました。でも、受け入れることで、何でも挑戦してみることがとても大事だと実感しました。今回の交流を通して、少し自分に自信を持てるようになりました。また、彼女が「いつかデンマークに遊びに来てね！」と言ってくれたことで、「今まで以上に英語の勉強を頑張ろう!!!」と思えました。「幸せの国」と言われているデンマークから来た彼女から、私はたくさんの幸せと勇気ももらいました。

ホストファミリーを経験して思ったこと

1年3組 喜多 海斗

僕は、今回初めてデンマークにある姉妹校フレデリクスハウン高校からの訪問団の生徒、マティアスをホストファミリーとして迎えました。迎え入れる前は何を準備すればいいのか、うまくコミュニケーションがとれるのか、など不安なことが多かったです。ですが、実際別にそこまで用意周到にしなくても何とかかなりまし、文法が少しおかしな英語をしゃべっても、相手は英語がペラペラなので、案外分かってくれました。でも、マティアスが家に来たその日は、お風呂やトイレの使い方などを説明するのはとても難しかったです。

二日目や三日目には一緒にスーパーで買い物をしたり、銭湯に行ったりして少しでも日本らしさを感じてもらえるように意識しました。ですが、銭湯はデンマークにはない文化なので、誘ったときは正直了解を得られるかどうか不安でしたが、マティアスがこころよくオーケーしてくれた時はほっとしました。

他の訪問団の生徒や日高高校の生徒と協力して、地質についての学習の資料を作成し、発表するプログラムでは、マティアス以外のデンマークからの高校生とも会話をする機会が多かったので、仲を深めるのにもとても役立ちました。また、ホストファミリーと訪問団の人がよりお互いの国について理解できるので素晴らしいと思いました。今年のテーマは防災についてでしたが、もっといろいろなテーマでも発表ができればできたらなと思いました。

地質について調べるために訪れた白崎などは、天候には恵まれなかったものの、改めて気づけたこともたくさんありました。先生方の英語での説明もとても分かりやすく、きっと訪問団の人たちもしっかり理解することができただろうと思いました。

生徒ホールで開催された生徒交流会も、普段はなかなか話せない外国の人たちと話せるいい機会だと思いました。特に最後にあった各自で写真撮影をするための時間は、なかなか自分から写真を撮ってくださいとは言出しにくいので、そういう空気を作り出すのにはとても効果的だと思いました。

僕はホストファミリーをすることになった時、「まだ一年生だし、英語もあまり得意ではないのでうまくいくかな」と不安でしたが、間違っても全然いいので、自信をもってはきはきしゃべるとわかってくれることが多かったです。さらにジェスチャーなどをもっと加えたりしていればもっと伝わりやすかったのかな、とも思いました。最初はどこかよそよそしかったのですが、一緒にご飯を食べに行ったり買い物に行ったりしているうちに、簡単な会話しかしていなくても、だんだんそういう感じはなくなっていきました。

僕は初めてホストファミリーを経験してみて、自分の英語でもなんとか伝えようと思えば伝わるのが分かりました。これはほんとうに外国の人と話してみなければ分からないことだと思うので、とてもいい経験になりました。海外研修などに行きたいが不安でなかなか申し込みにくいと思っている人などは、一度ホストファミリーを経験してみれば、少し自信がついて気が楽になるのかなと思いました。

外国の人と会話したりするというのはなかなかできる経験ではないので、一度勇気を出してホストファミリーを経験してもらいたいです。

その他

アジア・オセアニア高校生フォーラム 2017

2-4 太田 茉穂

私たちはアジア・オセアニア高校生フォーラムに参加しました。最初この話を聞いたときは、海外の生徒と交流する機会なんて滅多に無いし、いい機会だと思って参加を決めました。ですがプレゼンの準備を進めていくうちに、私たちのプレゼンを通して、今まで知らなかったことを知って欲しい、自分たちはこんな意見を持っているけど海外の生徒はどう思っているのだろうと思い始めました。私たちは分科会発表で原発事故の恐ろしさについて発表しました。発表準備期間はとても大変でした。私たち自身も原発についてそこまで詳しい訳ではなかったので、インターネットや本からたくさん情報収集をしました。また、実際に原発誘致の反対運動に関わっていた方に話を聞くために、日高町へも行きました。この反対運動はもう何十年も前の事だったのですが、実際に話を聞くことで、新聞記事では到底知ることの出来ないような当時の貴重な話を聞くことが出来ました。そして、こういった事をふまえてプレゼンを作成しました。



実際に他の学校や海外の生徒の前で発表するのはとても緊張しました。ですが発表は無事終わる事ができてほっとしました。発表後に質疑応答がおこなわれるのですが、原発は危険なので安全で環境に良い発電方法が良いのでは、と話がまとまりました。またその発電方法の一つとして太陽光発電が出てきたのですが、海外の生徒がソーラーパネルを設置する事自体が環境破壊につながるのでは、と言ったときは全くそんな考えを持っていませんでしたし驚きました。ですがおかげで環境に良い発電方法の意味の定義を考えるきっかけにもなりました。

実際に参加してみて国際的な問題は環境汚染だけでなく、紛争・LGBTQへの理解についてや自国の産業が海外進出のため産業の空洞化が起こるなどといった様々な問題があることがわかりました。こういった発見や考えの深化は、普通に高校生活を送っているだけでは絶対にできなかったことだと思いました。高野山研修ツアーでは生徒間の交流もはかりました。またルームメイトも海外の生徒でした。私は耐久高校の生徒とオーストラリア人の三人でした。最初はお互いぎこちなかったですが、プレゼントを交換したり日本語を教えてあげたりして仲良くなりました。

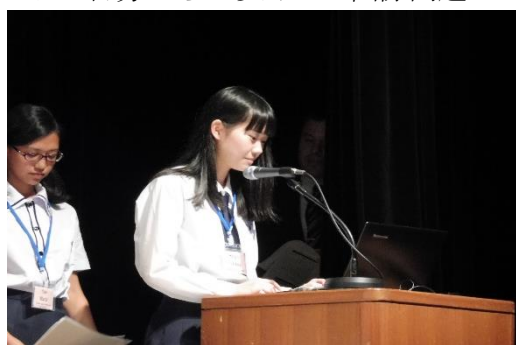
このフォーラムを通して私は、もっと広い視野で物事を考えたいと思いました。どんな場合においてもそうですが、自分の固定概念にとらわれず、柔軟な発想や対応ができる事が重要だと感じました。また自分がどれだけ英語が話せないのかも痛感しました。英語が十分に話せないせいで、自分の意見を言えないことが多々ありました。自分の意見を海外の人にもしっかり伝えるために英語は本当に欠かせない物だと思ったし、英語を学ぶモチベーションアップにもつながりました。私はこの三日間とても充実した日々を過ごせました。またこういう機会があれば参加してみたいなと思いました。

2-4 湯川ひかる

3日目の午後から、和歌山県立県民文化会館小ホールで全体会発表が行われました。全体会発表とは、各カテゴリーの分科会発表の内容を簡潔にパワーポイントのスライドにまとめて、他のカテゴリーに報告し、そのことについて、オーディエンスも含めて全体で質疑応答、意見交換を行うものです。発表に向けて、内容をどんな風にまとめるか、全体で議論する議題は何にするかなどを各カテゴリーで毎晩打ち合わせをしました。そこでは様々な意見が出て、それがまとまらなくて苦戦することもありました。特に全体会の前日の打ち合わせは夜遅くまでかかり大変でした。ですがその成果もあって議論を深めることが出来ました。



当日の午前中に、最終打ち合わせ、リハーサルを終え、いよいよ全体会本番です。登壇前、舞台袖でとても緊張していた時に、皆で集まって、「がんばろう！」と言い合って、緊張をほぐすことができたのを覚えています。ついに自分たち国際問題カテゴリーの番になり、舞台に上がって、全体会司会者の生徒が、一人一人を紹介してくれました。まず、全体会発表者である、私と智弁学園和歌山の生徒の2人で、国際問題カテゴリーの分科会でそれぞれの生徒が発表した内容をまとめて発表しました。そして、その中から出た議題を発表しました。議題に挙げたのは、「同性愛を尊重するためには今後どのようにしていけば良いだろうか」、「自国の産業を守っていくにはどうしたらいいか」の2つです。自分たちでその議題の解決方法を舞台上で提案しあったり、オーディエンスからも解決方法の提案や質問を受けたりしました。前者の議題で提案された解決方法は、「同性愛についての教育を充実させれば良いのではないかなど」、後者の解決方法は「国内の消費を活性化させれば良いのではないかなど」などです。



また自分たちが参加した国際問題カテゴリーだけでなく、環境・防災・観光・人権教育のカテゴリーで発表された内容、挙げられた議題も聞いて、関心や理解が深まりました。本番が終わった後、文化会館のロビーに集まって、カテゴリーの生徒と、指導してくださった先生で集合写真を撮りました。それからは、一人一人と写真を撮ったり、ラインを交換し合ったりして楽しい時間を過ごしました。

その後17時30分から、和歌山県知事主催の知事レセプションが開かれました。全カテゴリーの生徒が集まっていたので、所属するカテゴリー外の生徒とも交流が出来ました。食事をしながらいろんな話をしたり、事前に作っておいた名刺を交換しあったりしました。各国の伝統文化の発表もありました。

私自身、こうした様々な国と地域の生徒との意見交換や交流の場に参加したのは初めてだったので、余計に英語の重要さが身にしみました。同時に、国や文化も違う相手と、英語で通じ合えるのは素晴らしいことだなと感じました。

SMJK Katholik 校 来校

今年度は12月に、マレーシア SMJK カトリック高校が本校を訪れました。短い時間ではありましたが日高高校生との交流を通し、日本の高校生活を体験しました。

日 時	2017年12月7日（木）11：30～15：00
訪問団概要	（国名）マレーシア （学校）SMJK Katholik 校 （構成）生徒 31名（15歳4名、16歳20名、17歳6名、18歳1名） 引率教員 4名
内 容	11:30 到着 11:40 歓迎セレモニー（於会議室） 12:30～13:05 昼食交流（於生徒ホール） 5限目 英語表現I 授業参加 6限目 箏曲部との音楽交流（於課外活動等2階）

訪問団到着後行われた歓迎セレモニーでは、本校生徒会代表生徒と1、2年生の各クラス国際交流委員が主体となって司会進行を行い、和やかな雰囲気のもと互いに自校を紹介し合いました。その後の昼食交流でも、弁当を食べながら生徒同士会話も弾み、メールアドレスを交換し合うなど積極的に交流していました。

また5限目は小班編成の英語の授業において、より多くの生徒がマレーシアの生徒と交流し、異文化を体験することができました。

SMJK Katholik 校は特に音楽教育が盛んな学校で、本校箏曲部との音楽交流の機会を設け、箏曲演奏とマレーシアの伝統楽器を交えたアンサンブル演奏を互いに披露し合いました。また訪問団生徒には実際に箏の演奏を体験してもらい、最後に日本古謡「さくら」を本校生徒と一緒に演奏するなど、音楽を通して心に残る交流ができました。

